

---

事例報告

---

## 「北里大学教職課程ホームカミングデー2023」 実施報告

山 本 明 利  
田 中 保 樹

北里大学理学部

江 川 徹

北里大学副学長

市 毛 正 仁  
落 合 賀津子

北里大学看護学部

西 原 秀 夫

北里大学海洋生命科学部

### 「教職課程ホームカミングデー2023」開催に至る経緯

本学教職課程センターは、各学部にも所属していた教職課程担当の教員を一つの組織にまとめ2013（平成25）年4月に新たに開設された<sup>1</sup>。同じ年、理学部同窓会と「北里OB教師の会」が企画し、他学部の同窓生にも呼びかけて、本学を卒業後、小中高等学校等の教育現場で活躍している教員の集い「カミングホーム2013」が9月21日（土）に開催された。学部の垣根を越えて、協力して教員を育てようという機運がこの頃から高まってきたといえる。このときの参加者は、卒業生（教員）26名、学生21名、本学教職員14名、理学部同窓会関係者11名の計72名だった。

その後、看護学部卒の養護教諭が初めて学校現場に就職したことを受けて、教職課程センターが主催して北里大学同窓会とのコラボレーション企画「教職課程カミングホーム2016」が2016年12月3日（土）に実施された<sup>2</sup>。教職課程の学生と卒業生教員の交流を通じて現場感覚を養うための教育活動と位置づけ、「教職実践演習」の講座とも連携し、大学より学長助成金の補助を受けて行われた。参加者は、卒業生（教員）34名、学生92名、本学教員10名、退職教員4名の計140名だった。

さらに3年後の2019年11月9日(土)には「教職課程ホームカミングデー2019」と改名して実施され、卒業生(教員)38名、学生98名、本学教員10名、退職教員2名の計148名が参加した<sup>3</sup>。このときも学長助成金の補助を得ている。

その後も、学生が教職課程に在籍する間に一度は参加できるようにと、3年ごとの開催を目指すこととしていたが、2020年からのいわゆる「コロナ禍」の影響が残る中、慎重を期して2022年の開催は見送り、「教職課程ホームカミングデー2023」として今般4年ぶりの開催の運びとなった。

## 実施内容

「教職課程ホームカミングデー2023」は、以下の実施要領に従って行われた。

日時：2023年11月11日(土) 14:00～18:30

会場：相模原キャンパス L 1 号館・第一会場：4 階41講義室(280名収容規模)

第二会場：2 階学生食堂

タイムライン：

13:30 受付開始・第一会場

14:00 開会

第1部(司会：市毛正仁)

挨拶 江川 徹(北里大学教職課程センター長・副学長)

竹澤美男(北里大学OB教師の会会長)

各学部の近況報告

14:30 第2部(司会：市毛正仁)

教員になるにあたっての抱負

来春、中学校の教員に赴任する4年生代表のスピーチ

来春、高等学校の教員に赴任する4年生代表のスピーチ

来春、教職大学院に進学する4年生代表のスピーチ

卒業生教員による助言等

15:10 休憩

15:20 卒業生教員によるご挨拶・お話(内容後述)

15:50 休憩・第二会場へ移動

16:40 第3部 情報交換会・懇談会(司会：山本明利)

教材提供者からの教材紹介・話題提供(内容後述)

挨拶・乾杯 須貝昭彦(自然科学教育センター長、OB教師の会北里大学事務局)

歓談・情報交換

挨拶 西村宗一郎(前教職課程副センター長)

閉会 西原秀夫（海洋生命科学部教授）

18:30 記念撮影・解散

各プログラムの内容と実施結果および成果については後述する。



写真1 第一会場のようす

## 当日の参加者

「教職課程ホームカミングデー2023」の参加者総数は131名で、その内訳は以下の通りである。このうち4年生の教職課程履修者は「教職実践演習」の授業を兼ねており、原則全員参加が義務づけられている。

○卒業生教員：計29名

○4年生：計63名（原則として必修）

理学部：37名（物理学科：14名、化学科：9名、生物科学科：14名）

海洋生命科学部：19名

看護学部：7名（情報交換会・懇談会からの参加）

- 3年生：計25名
- 退職教員：4名
- 本学教員：10名

卒業生は年齢層も広く多様な顔ぶれとなり、退職教員も交えて旧交を温めながら会は和やかに進んだ。

## 第1部

第一会場（L1号館4階41講義室）で始まった第1部では、冒頭、本学教職課程センター長・副学長の江川徹教授が挨拶に立ち、今回の集まりの意義やこれまでの経緯、大学の現状などについて説明した。次いで、「北里大学OB教師の会」の竹澤美男会長が謝辞を述べ、思い出を語った。



写真2 江川センター長の挨拶



写真3 竹澤会長の挨拶

## 第2部・学生によるスピーチ

引き続き第一会場において、教職課程を履修している4年生3名によるスピーチが行われた。本年の教員採用試験に合格して来年度から理科教員として中学校や高等学校の教壇に立つ予定の学生や、教職大学院（他大学）に進学して教員になるための学修をさらに積もうとする学生が、本学教職課程での4年間の学びを振り返り、教員になるにあたっての抱負を語った。これに対し、会場の卒業生からは激励やアドバイスがあり、他の学生も熱心に聴いていた。



写真4 学生によるスピーチ

## 第2部・卒業生教員によるご挨拶・お話

第2部後半は同じ会場で「卒業生教員によるご挨拶・お話」と題して4名の卒業生教員が演壇に立ち、以下のような表題で現場での実践報告や学生への助言・激励を述べた。

鈴木芳弘氏（東京学館高等学校 理事・校長）

「私立学校の特長」

深井敏行氏（前 都立板橋特別支援学校 校長）

「幅広い様々な教員免許状の取得方法の紹介」

秋元陽介氏（船橋市立中野木小学校 校長）

「小学校の学級経営について」

築田智志氏（宮城県大崎市立鳴子中学校 校長）

「生徒指導をとおして」

いずれも現場での深い経験に裏打ちされた重みのあるお話で、教職を目指している学生たちは熱心に耳を傾けていた。

## 第3部・情報交換会・懇談会

休憩を挟んで第二会場（L 1 号館 2 階学生食堂）に会場を移し、看護学部 of 学生も加わって、第3部「情報交換会・懇談会」が開催された。

第二会場には展示・発表ブースが設けられており、懇談会に先立って演示実験・理科教材や現場実践の簡単な紹介などの情報交換が行われた。

元本学獣医学部教授の渡辺克己氏は4Kカメラによる顕微鏡動画を4Kディスプレイで高精細に表示する手法を紹介し、生物教材の試料配付も行った。アレセア湘南中学校非常勤講師の大越悦子氏は、生徒と共に過ごした40年余りの教員人生のエピソードを綴った

自著<sup>4</sup>を紹介、本学理学部、田中保樹准教授からも著書紹介<sup>5,6,7</sup>があった。

若手からの発表もあった。北海道枝幸町立歌登中学校教諭の今井陽南子氏は自作の火山噴火モデル実験器を紹介、大磯町立大磯中学校教諭の山口北斗氏は「初任として感じた授業作りの難しさ」をレポートした。共に近年の卒業生で、着任先で頑張っている様子が伝わってきた。

さらに、新潟市立小針中学校教諭の南信厚氏による「大村先生のノーベル賞に関する授業」の報告、品川エトワール女子高等学校教諭の山口理沙氏からは高校現場で現在使われている教科書の紹介があった。このほかにもその場で飛び入りの発表もあり会場は大いに



写真5 情報交換会の一場面

盛り上がった。

情報交換会の後は、本学一般教育部・自然科学教育センター長の須貝昭彦教授の発声で「乾杯」（ただしソフトドリンクのみ）を行い、軽食をつまみながら懇談会に移行、そこかしこに歓談の輪ができた。

懇談会の最後には、仕事先から駆けつけた、前教職課程副センター長の西村宗一郎氏の挨拶と学生への激励があり、本学海洋生命科学部の西原秀夫教授の閉会の言葉でお開きとした。



写真6 懇談会のようす

## 卒業生の反応

卒業生の参加者に書いていただいたアンケートから一部を抜粋する。

- ・すべての学生さんが、自分の考えをしっかりとって、想いを伝えていて立派でした。4月から教育現場での活躍を期待しております。今の気持ちを忘れず、長く教員として生徒のために尽力してください。応援しています。
- ・スライドや説明の準備がしっかりとされていてわかりやすかったです。実際に教員として働いてみると教育実習では学べなかったことがたくさんあることに気づくと思います。毎日忙しく過ごしていると、理想の教員像や理想の授業像など着任前に考えていたことを忘れがちです。経験を積んでいく度に初心を思い返しながら子どもたちと関わってほしいと思います。
- ・若い学生の皆さんの意欲あふれるお話が聞けたことが良かったです。
- ・教職を目指す学生が減少している現状から、このような機会があると教職に対する希望や不安解消の一助になると思います。2年に一度ぐらいの頻度で開催されると、教職を希望する学生は、より一層現場を身近に感じてもらえるように思いました。
- ・合格者による多様な発表、やる気、若さに私も元気をもらいました。ぜひ続けてください。



写真7 先輩を囲んで学部での記念写真

- ・北里の理科教員として頑張っている人の発表もほしいと思いました。
- ・学生さんの発表は初心を思い出させてくださいますので、次の開催も楽しみにしております。

## 学生の反応

最後に、参加した4年生へのアンケートから、「今回参加して、先輩方から学んだことは何ですか」という質問項目への回答を抜粋する。学生がこの企画に真剣な気持ちで参加し、卒業生から多くのことを学んで大いに刺激を受けているようすが伝わってくる。

- ・先輩方の熱意が感じられ、教育現場で働くことの良さを学びました。
- ・同じ北里大学を卒業した方でも、小中高、私立公立、特別支援、いろいろな学校で働き、やりがいを感じていることがわかった。
- ・話している方たち全員が、仕事に誇りを持って楽しそうに話していたので、大変だけど楽しい仕事なのだと感じた。
- ・教員はやりがいがあり、魅力の多い仕事だということを改めて学んだ。先輩方も生徒から学び、生徒と共に成長でき、教員という仕事に誇りを持って勤めているのを知り、教員の良さを改めて感じた。
- ・現場で実際に働いている先生のお話を聞けば聞くほど、私が想像しているほど教員という仕事は甘くないと改めて実感した。実際の教育現場に立って初めて学ぶことがたくさんあると思った。教育実習の3週間でさえあんなに多くのことを学んだのだから、教員になったら現場ならではのこともっと学べると思った。
- ・高校と中学の教員にしかないと考えていたが、小学校や特支の教員にも頑張ればなれるということを聞いてとても夢が広がった。
- ・私立学校の話や他種の教員免許状といった知らなかった事を聞くことができました。
- ・教員免許がいろいろな方法で取れることがわかった。
- ・特別支援学校の詳細を知ることができた。リアルな話が聞けて勉強になった。
- ・学び続けることの大切さを改めて感じました。社会で求められる資質・能力や教育環境はめまぐるしく変化しています。その状況で生徒を指導するためには教員側も変化を続けなければなりません。そのために先輩方が何を行っているのか、どのような心持ちで教員として勤めているのかを知ることができました。
- ・経営者、校長や学年主任など、より詳細な立場から状況や生徒の気持ち、教師の対応の仕方を知ることができた。実際の生徒指導の例から、臨機応変に考え行動できる適応力の大切さを学んだ。
- ・生徒指導の話で、教員と生徒、親とのバランスを意識することはとても勉強になりました。

- ・生徒指導の際にも教科指導の際にも、一番重要なのは生徒の事をよく見て、生徒に合った対応をしていくことだと感じた。
- ・教員になる上での重要なこと、考え方を改めて学ぶことができた。何のために教育に関わりたいのかを今一度考え直したいと思った。
- ・教員になった際にも「学び続けること」が大切だと学んだ。時代が変化して行くにつれて、学校の環境も変化していくため、常に学び続けて変化に対応していく必要があると感じた。
- ・さすが先生、要点をまとめてわかりやすく、なおかつおもしろく話すスキルが高いと思った。どなたもだらだら話さないため、内容がスッと入ってくるし、自分でも興味を持って聞くことができた。
- ・教員不足の現状や私学の特長、公立の特長など、知識としてはあったが、実際に話を聞いてさらに理解が深まった。
- ・私立学校の校長先生のお話を聞くことで、公立学校以外の学校の様子を知ることができた。
- ・私立は民間の会社と同じで動きが早いというのはとてもメリットだった。
- ・どの先生方も「こうありたい」という理想の教員像を持っていて、常にそれに向かって努力している。生徒との関わりの中にも楽しさとやりがいを見いだすことが長く続けていくために大切なことなのだと気づいた。
- ・先輩教員の皆さんは本当にたくさんの経験をしていらっしゃった。自分がどんな人生を歩みたいかしっかり考えたいと思った。
- ・これだけ多くの先輩方がいらっしゃることも心強いと感じたし、教員として更に学び続け、頑張っていきたいと感じた。
- ・先輩の先生方や同級生で教員への道を歩んでいる様子、実態を知ることができる大変勉強になる会でした。
- ・「教育は日本の将来・未来を決める」というお言葉が記憶に残った。教師という仕事に責任を持ち、生徒と共に学び続ける教師でありたいと思う。

### 「教職課程ホームカミングデー2023」を総括して

長く続いたコロナ禍がようやく終息に向かい、ホームカミングデーが再開できるようになったことをまず喜ぶたい。今回の企画は、教職課程の教育活動の一環として実施した3回目のイベントとなった。卒業生同士が旧交を温める同窓会にとどまらず、教職課程の学生を交えて互いに交流してもらうことで、お互いに大いに刺激になったと思われる。上記のアンケートの回答を見ても、参加者にはとても好評だったことが読み取れる。特に学生にとっては、大学での講義や教育実習とはまた違った角度から、これから赴こうとする教育現場の実態を知り、先輩教員からの生の声を聞くことができるまたとないチャンスと

なった。アンケートの声にもあるように、学生が在学中に一度は参加できるように、今後も2～3年の間隔で同様の企画を継続できれば大きな効果が期待できる。

北里大学の教職課程の出身者は全国各地に根を下ろしてそれぞれの現場で活躍している。今回会場に足を運べなかった方々も含め、卒業生・学生そして教職課程センターのスタッフが連携し一体となって「チーム北里」として、わが国の教育の推進力となることを期し、今後も組織作りや現場サポートに努めたいと考えている。



写真8 終了後、1階の北里柴三郎像前で卒業生と職員・旧職員の記念撮影

## 謝辞

本稿を結ぶにあたり、「教職課程ホームカミングデー2023」の趣旨を汲んで、業務多忙の中遠路参集してくださった卒業生の皆様にまず感謝したい。先輩としての教育現場へのいざないと激励は、教職を目指す学生たちに大きな力を与えたに違いない。

本企画の準備にあたり、北里大学同窓会から、教職に就いている卒業生の名簿をご提供いただき、全面的にご支援いただいた。ここに記して御礼申し上げる。

末筆ながら事務室の八木美代氏、鈴木哲也氏には企画書類作成の段階から案内状発送、当日の運営に至るまで膨大な量の事務を引き受けていただき、活動を支えていただいた。ここに心から感謝して筆を置く。

## 参考文献

- 1 川井陽一（2016）「北里大学教職課程センター設立と『北里大学教職課程センター教育研究』創刊の経緯」『北里大学教職課程センター教育研究』第1号
- 2 山本明利他（2016）「『北里大学教職課程カミングホーム2016』実施報告」『北里大学教職課程センター教育研究』第2号
- 3 西村宗一郎他（2019）「『北里大学教職課程ホームカミングディ2019』実施報告」『北里大学教職課程センター教育研究』第5号
- 4 大越悦子（2022）「高校教師78のエピソード」郵研社
- 5 田中保樹・三藤敏樹・高木展郎（2020）「資質・能力を育成する学習評価 カリキュラム・マネジメントを通して」東洋館出版社
- 6 田中保樹・三藤敏樹・高木展郎（2021）「資質・能力を育成する授業づくり 指導と評価の一体化を通して」東洋館出版社
- 7 田中保樹・増田裕允・小倉恭彦・後藤文博（2021）「資質・能力を育成する科学的な探究と学習評価 中学校理科 指導と評価の一体化を通して」東洋館出版社